様式1

令和3年度　学校評価表

学校教育目標	心豊かにたくましく　共に学び伸びる「けやきっ子」の育成

a ミッション	・御調地域が一体となった活気ある学校づくり	**aビジョン** ○自ら考え学ぶ児童が育つ学校 ○互いを認め合い、共に伸びる児童が育つ学校 ○論理的に考え、表現できる児童が育つ学校 ○教職員が育ち、その実践によって児童や保護者・地域の方々に信頼される学校

尾道市立御調中央小学校

	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	担当者	f 目標値	自己評価 7月 g 達成値	自己評価 1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	学校関係者評価 k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	改善計画 m 改善案
確かな学力の育成	基礎・基本の学力の定着	自ら考え，論理的に表現することのできる児童の育成	○日々の授業改善 ・学年の系統性の整理 ・学期に１回以上既習を活用した授業提案 ・表現様式を活用したノート指導	標準学力調査（算数科）全学年が全国平均以上	教務	100		67%	67%	C	結果 「標準学力調査が全国平均を超える学年」の割合６７％ 1年（+4.3）2年（+2.1）3年（-3.1）4年（+5.9）5年（-2.8）6年（+3.9） 全国平均を超えていない学年は，記述問題の通過率が低い。 成果 ①本年度，「表現様式の変換」を取り入れた授業研究を行い，授業改善に取り組んだ。表現様式を取り入れたノートづくりは児童にも意識できてきた。 課題 ①全国平均を全学年が越えることができない要因として，表現様式を用いた説明が十分にできていないのでと，記述式問題の解答率に課題が大きいということが考えられる。表現様式を用いた説明力を高めるために，表現様式の活用場面を授業中に多く取り入れる必要がある。	2		1	・毎日のドリルなどの日々の積み重ねが学力向上につながる。説明力の向上には読書の積み重ねが必要ではないか。 ・自分の考えを自分の言葉で表現することが求められている。そのためには授業改善や指導者の交流を重視し，指導力アップを目指してほしい。	・表現様式の変換を用いた説明場面を十分に取り入れ，説明力の向上を意識した授業改善に取り組む。 ・普段から読書活動や言語活動をしっかりと行い，説明力を高める。
				表現様式を活用して自分の考えを表現できる児童の割合(ノート・操作活動での見取り)	教務	80	79%	82%	103%	A	結果 「表現様式を活用して自分の考えを表現できる児童」の割合82% 4月　69%　5月　81%　6月　83%　7月　82%　9月　84% 10月　82%　11月　87%　12月　87%　1月　87% 成果 ①校内研修で，児童に使わせたい表現様式の具体例を複数考えたり，考えさせる場面で児童にどのような言葉かけを行っているか交流したりして，授業に取り入れたことで，自分の考えをノートに書こうとする児童を増やすことができた。 ②よく書けているノートを各学級で紹介したり，毎月校内に掲示したりすることで，児童にも目指すノートや書き方を示すことができた。 課題 ①本質的な問いに基づく単元構想や，各単元で使わせたい表現様式を協議する機会が少なく，表現様式の活用が各担任の裁量になっているため，お互いの取組を交流し合う機会を多く取り入れる。 ②児童の考えを深めるために，複数の表現様式を比較したり，関係付けたりして説明させることが十分にできていない。授業の中で比較や関連付けを教師自身が示したり，できている児童を評価したりして，指導していく。	2		1	・表現力を付けることは児童の将来においてとても大切なことであるが，表現するにはまず，他者の意見や意図をしっかりと聞き取る力が必要である。 ・ノートの校内掲示は良いことだと思うが，児童が参考にするような声掛けをしてやってほしい。 ・担任が交流し合う時間はとても大切。全体で難しければ低学年，高学年とかにわけて時間をとる工夫をし合って深めてほしい。	・相手の意見を自分の考えと比べながら聞くなど，発達段階に応じた「聞くこと」の徹底を図る。 ・引き続き，よく書けているノートを紹介したり提示したりして児童に参考にさせる。 ・表現様式の比較や関連付けなど，表現様式における活用を中心に，お互いの授業を見合うことで，授業改善を図る。
豊かな心の育成	意欲や耐性を高めやり抜く力の育成	規範意識の育成	○挨拶の徹底 ・レベル５の挨拶 ・授業で挨拶の徹底	挨拶（レベル３）ができた児童の割合（居心地点検でのアンケート）	生徒指導	100	89%	91%	91%	B	結果 「レベル3以上の挨拶をしている児童」の割合89% （自分から　相手の目を見て　伝わる声） 4月 169/193　5月171 /193　6月173/193　7月 173/193 9月 173/192　10月175/192　11月173/192　12月179/192 1月181/193 毎月のアンケートの集計では，2年・3年・5年・ひまわりのできていない人数の割合が高い。 成果 ①朝だに「あいさつをする良さ」を各教室に掲示し，「あいさつレベル５」とともに朝の会・帰りの会やアンケート時などで確認をすること，毎日「レベル３以上の挨拶」ができたかを各クラスでふり返ることで児童に意識付けをすることができた。 ②挨拶名人の表彰や児童会による挨拶運動・表彰，良い挨拶ができている児童に対して全職員での肯定的な評価などを通して意欲を向上させることができた。 ③レベル３以上の挨拶をする児童が増えてきている。 課題 ①見守り隊の方やバスの運転手さんなどにアンケートを行った結果，児童はレベル３以上の挨拶をすることができているが，登校班や学年など集団によって声の大きさなどにばらつきがる。引き続き，毎日のふり返りや挨拶名人の表彰などを行っていく。	3			・挨拶運動をされている方や見守りをされている方には特に感謝の意も込めて挨拶をしてほしい。 ・挨拶運動，表彰等の具体的な取組はよい。児童は挨拶をする子としない子は半々である。登校班では，子供達が声をかける朝一番の挨拶の良さを指導してほしい。 ・良い挨拶をほめる取り組みは良いと思う。長期間継続することが大切な取り組みだと思う。	・引き続き，挨拶名人の表彰等，全職員での肯定的な評価をし，挨拶の意欲を高める。 ・掲示している「あいさつをする良さ」について話し合う機会を設け，挨拶の意義や大切さについて考えさせていく。 ・道徳等を通して，挨拶運動をされている方や見守りをされている方の気持ちや思いを考えさせ，感謝の意をもって挨拶できる心情を育てる。
健やかな体の育成	健康な心身の育成	基礎体力の育成	○コロナウイルス感染予防の徹底	給食前に手洗いやうがいができる児童の割合	養護	100	99%	100%	100%	A	結果 「給食前に手洗いやうがいができる児童」の割合100% 成果 ①給食配膳前に「手洗いの歌」を放送し，手洗いの習慣をつけることができた。 ②保健委員会が，毎月１週間手洗いチェックを行い，ほぼ全員が手洗いを行うことができた。 ③クラスで手洗いチェックの係を決めたり，教職員が手洗い場でチェックをしたりして，丁寧な手洗いをすることができた。 ④指導が入りにくく手洗いをしない児童がいたが，保健委員と一緒に手洗いをすることで，手洗いすることができるようになってきた。 課題 ①手洗い実施率は常に１００％にする。そのため，手洗いの必要性を理解させ，習慣を付けさせる働きかけを日々徹底していく。	3			・引き続き取り組みを進めてほしい。 ・生活習慣として手洗いが定着したことはよい。 ・１００％の達成率で素晴らしい。いろいろな工夫を実践されていて定着できている。	・引き続き，学級でこまめにチェックをするとともに，手洗いの必要性について話し合い，習慣を付けていく。
			○走力の育成	50m走の男女別学年平均タイムが全国平均以上の学年の割合	保体	80	31%	53%	66%	C	結果 「50m走の男女別学年平均タイムが全国平均以上の学年」の割合５３％ 成果 ①毎日の体育委員会の呼びかけにより，外遊びをする児童が増えてきている。 ②１年が通過率８８％，２年が４７％，３年が５４％，４年が５５％，５年が４０％，６年１組が６５％，６年２組が４５％と全クラス伸びている。値が高いクラスは男女ともに全国平均を上回っている。高学年は6年１組以外は男子が全国平均を上回る児童が多い。 課題 ①特別支援学級や低学年の走力がついていない。高学年女子に全国平均を上回る児童が少ない。 ②走力の向上につながる基礎的な運動能力を身につけるメニューを10分程度取り入れるよう，取組を進める。	2		1	・コロナ対策によって体力の向上が図りにくくなっていることが心配である。その中でもできることを引き続き模索していくことが必要である。 ・外遊びをする児童が増えていることは子供達の心身の発達からも大変良いことだと思う。基礎的な運動能力を身に付けるメニューを具体的にし，伸びが自分に分かるようにすることが必要。 ・年度初めと比べると成果が表れており，次年度に継続されると良いと思われる。	・走力の向上につながる基礎的な運動能力を身につけるメニューを考え，提示するとともに，記録カードといった自身の能力の伸びを実感させるような手立てをうつ。

【自己評価　評価】
A：１００≦（目標達成）　B：８０≦（ほぼ達成）＜１００
C：６０≦（もう少し）＜８０　D：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。